

## 第5回 リニア駅前エリア整備の在り方検討会議 議事概要

日時：令和3年3月25日（木）10:30～11:15

場所：山梨県庁防災新館406・407会議室

（Web会議により開催）

- ◆議 事：（1）リニア駅前エリア整備の在り方（整備方針）  
（2）公共交通によるリニア駅と既存駅等とのアクセス向上について

◆出席者：【検討会議委員】 ※敬称略、50音順

（学識者）

<座長> 佐々木 邦明 早稲田大学 教授  
鈴木 克宗 （一財）道路新産業開発機構 業務執行理事  
瀬田 史彦 東京大学大学院 准教授

（民間）

池田 雄次 山梨交通株式会社 取締役運輸管理部長  
小林 明 山梨県商工会議所連合会 専務理事（欠席）  
山口 健一 公益社団法人やまなし観光推進機構 専務理事

（行政）

小田切 浩 山梨県リニア交通局 リニア推進監  
五味 将元 中央市 企画課長  
清水 敬一郎 山梨県県土整備部 理事  
根津 豊 甲府市まちづくり部 リニア交通政策監

（オブザーバー）

隅谷 卓 東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部  
中央新幹線建設部 担当課長  
米本 太郎 東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部  
中央新幹線建設部 副長  
原本 隆一 東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部  
中央新幹線建設部 主任

【事務局】

山梨県：リニア未来創造・推進課

甲府市：リニア政策課

中央市：企画課

◆会議次第：

- 1 開会
- 2 議事  
(1) リニア駅前エリア整備の在り方（整備方針）  
(2) 公共交通によるリニア駅と既存駅等とのアクセス向上について
- 3 閉会

◆内 容：

○議事（1）リニア駅前エリア整備の在り方（整備方針）

<資料 1-1、1-2 により説明>

○委員

今までの議論が集約され、コンパクトにまとまっておりますので、来年度以降の実施に向けて、県の皆様に頑張ってもらいたいと思います。

○委員

私も全く同じ意見です。

○委員

今までの内容が、本当にわかりやすくまとまっていると思います。

乗り場の関係やサービス機能、各施設等について、来年度以降、より具体的な内容について、ご検討いただければと思います。

○議事（2）公共交通によるリニア駅と既存駅等とのアクセス向上について

<資料 2 により説明>

○委員

バスタ新宿の全体をプロデュースしましたが、レールがないということは、初期投資が非常に軽減でき、需要に応じて減便したり、増便したり、色々なことができます。

今回、鉄道ではないけれど鉄道的な機能を持たす新しいモビリティということで、レールという初期投資がなく、レールの管理についても非常に膨大な管理費がいらなくなるため、やはりそこはハードルが低いと思います。

上に走らせるものについても、時代に応じてあるいは環境に応じて、自由実在に変えられるため、多々課題はあると思いますが、実際にこれからの変化に合わせて柔軟に対応できるような心構えを持っていただき、できるだけ新しいモビリティを大事にして欲しいと思います。

人口減少が予想される日本で、今のレールの形で地方鉄道が、どこまでその役割を果たせるか、今回ここでやろうとしている新しい将来の鉄道の姿は、色々な意味で先駆的なプロジェクトだと思いますので、大事に育てて行って欲しいと思います。

○座長

非常に変化が激しいというご指摘は、その通りかと思いますが、そういったところに十分対応できるよう大きく育て、他の地域の見本になるような形で整備を進めていただきたいと思います。

#### ○委員

特に冬期に関しては、この峡南地区に対する観光需要が、先のごことはわかりませんが、他のシーズンに比べて弱含みであるということは、避けられないのかなと思います。

シャトルバスを整備する中で、10ページのようにイニシャルコスト、ランニングコストが相当数かかる中では、的確な需要予測が必要だと思います。

難しいとは思いますが、これからの開発の中で、需要をしっかりと把握するとともに、厳しい時期があることを認識した上で、開発を進めて欲しいと思います。

#### ○委員

このシャトルバスについては、従来から言われております、渋滞遅延等の発生を感じさせないような、電車と同じような感覚で利用できるスタンスが非常に重要だと思います。

それだけではなく、PTPSや運賃の前払い等電車と同じような方式をとっていくということが非常に重要だと思います。

そのためには、色々な道路を交差するといった問題もあると思いますが、専用道整備が非常に重要であり、これが実現できれば、先進的な事例となると思いますので、ぜひ実現をお願いしたいと思います。

#### ○座長

公共交通とリニア駅のアクセス向上というこの議論の中で、定時性であるとかそういったことを非常に重要とされておりましたが、整備の考え方を含めて、いかにシームレスにシャトルバスに乗り換えられるか、乗り換えがすごく大変ということがないように、整備の方針とアクセス向上は両輪と考えておりますので、相互に関係しながら検討を進めていただくと非常にありがたいと思います。

#### ○委員

イニシャルコスト、特にハードの部分について、非常にお金もかかるし時間もかかり、1回できると固定されてしまい、なかなか融通が利かなくなり、その分をペイしなければならないため、需要をしっかりと見ながら慎重に検討すべきだと考えております。

現在は、人口減少もあり、インフラや公共施設をどんどん効率化して減らすような方向にあると思いますが、仮に公設になる場合は、それと反対の方向に向かいます。当然需要があればそれでもいいと思いますし、新技術を導入して、テストベッド的な取り組みをすることは否定しませんが、その際は、しっかりと効果が見られるような検討をした上で行うべきだと考えます。

#### ○座長

いくつかご意見をいただきましたので、そういったことを踏まえまして、来年度以降、公共交通、リニア駅とのアクセス向上につきまして検討を進めていただきたいと思います。また、新しいモビリティ等の開発が急速に進んでおりますので、そういった情報を取り入れながら、引き続きご検討いただきたいと思います。

今回の会議をもちまして、リニア駅前エリア整備の在り方検討会議を閉じさせていただきますが、まずは、委員の皆様のご協力のもと、「リニア駅前エリア整備の在り方」及び「公共交通によるリニア駅と既存駅等とのアクセス向上について」が出来ましたこと、あらためてお礼を申し上げます。

リニア開業に向け、引き続き県の方で検討していくことと思いますが、委員の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。